筑波学院大学紀要第３集　169～179ページ　　2008年

＜研究ノート＞

筑波学院大学オフ・キャンパス・プログラムの成果と今後の課題

― 社会力コーディネーターの視点から ―

武田　直樹*・西機　　真*

The Result and Subject of Tsukuba Gakuin University Off Campus Program from the View Point of Off Campus Coordinator

TAKEDA Naoki * and NISHIKI Makoto *

抄　録

筑波学院大学が、平成17年度から学生の「社会力」育成のために取り組み始めた「つくば市をキャンパスにした社会力育成教育」～オフ・キャンパス・プログラム（Off Campus Program）～は今年度で３年目を迎える。学生が学外で社会参加活動を行うためには市民活動団体の協力が不可欠である。このために、学生と市民活動団体の橋渡しをする「社会力コーディネーター」の視点から、オフ・キャンパス・プログラムのこれまでの成果と今後の課題を整理し、より良い教育プログラムとして推進していくための考察を行うことを本稿の目的とする。

キーワード：社会力、コーディネーター、社会参加活動、市民活動団体、協働、つくば市

１．オフ・キャンパス・プログラムの概要

筑波学院大学で平成17年度から開始した「つくば市をキャンパスにした社会力育成教育」～オフ・キャンパス・プログラム（Off Campus Program）～は今年度で３年目の取り組みとなった。

これは、「つくば市をキャンパス」にするという構想「オフ・キャンパス・プログラム」（以下、OCP と略す）を通して、１年生から３年生までの学生全員が３年間に亘り、「つくば市をキャンパス」にしながら、一人の市民として様々な社会活動に参加することで、社会の仕組みを実感できるとともに、幅広い人間関係を築くことができると考え、全学を挙げて取り組んでいる実践プログラムである。

具体的には、１年生がクラス企画と１回の社会参加活動体験となる実践科目 A、２年生が市民活動団体のスタッフとして30時間以上

＊　筑波学院大学社会力コーディネーター、Tsukuba Gakuin University

の中長期的な活動を行う実践科目Ｂ、３年生が社会との関わりの中で自主企画を立て60時間以上の活動を行う実践科目Ｃで構成され、実践科目Ｃは、今年度から筑波学院大学の一期生である３年生が、初めて取り組んでいるところである。

このOCPは、実践を開始してわずか２年目の平成18年度、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP)/ 地域活性化への貢献」に採択され、昨年度から同省の助成金を得ながら、社会力を育てる教育を実践している。

また、平成18年４月に経済産業省は、大学を卒業し、社会人になる人間に求められる資質能力を「社会人基礎力」とし、大学教育によってそうした資質能力を育てて欲しいと要請した。このような大学への要請は、本学の取り組むOCPを通した社会力育成と同様のことである。

このように、OCPは人間同士が直接のコミュニケーションを図る機会が著しく低下し、地域の中での人間関係が希薄になりつつある昨今の社会環境において、教育界のみならず、経済界までもが強く危惧する、これら社会問題の解決のために、一教育機関として真正面から取り組む教育プログラムである。

２．OCPの協力団体と実践事例

２．１．OCPの協力団体

OCPは、学生の社会参加活動の受入に協力して下さる受入団体なしには成り立たないプログラムである。

受入には、つくば市を中心とした市民活動団体、NPO法人、行政、民間企業、等が協力してくださり、平成18年度は、１年生は38団体、２年生は49団体、合計69団体（延87団体）で活動し、学生は受入協力団体98団体のうちの約2/3の団体で活動を行ってきた。平成19年度は、昨年度の連携実績、協力団体の体制、また、OCPに対する理解が浸透したこともあり、受入協力団体に若干の変更があり、99団体が協力をしてくださった。平成20年１月末日現在で、１年生は22団体、２年生は47団体、３年生は13団体、合計58団体（延82団体）で活動を行っている。

大学という一教育機関が、OCPという教育プログラムを通して、100近い様々な市民活動団体と協働していることは、市民のニーズが横の繋がりへと広がりを求めている社会環境において、先駆的な取り組みであるといえよう。

２．２．OCPの実践事例

OCPを通して、学生が様々な団体での社会参加活動に取り組んできた。ここでは、その実践事例をいくつか挙げることとする。

２．２．１．市民活動団体の重要な役割の一部を担うまでに成長

「つくば・まちかど音楽市場ネットワーク」で実践科目Ｃとして活動を行っている３年生の学生は、２年生の実践科目Ｂで、ストリートライブイベントの運営補助を行ってきた。そこで、活動当初はチラシ配りから始まり、徐々に機材のセッティングや操作の仕方などを覚えた。その過程で、受入団体との良好な信頼関係を築き挙げた。その経験と意欲を３年生でも継続し、実践科目Ｃでは、自主企画としてストリートライブの運営を開始し、毎週水曜日の夜、受入団体に代わって活動を開始した。ライブを行うに当っては、関係機関との交渉手続き、企画案内や演奏家募集のためのホームページの作成、また、当日の運営まで、企画実施の一連のプロセスまでを担うに至った。また、実践科目Ｂで活動を行っている２年生の受入も行い、後輩の指導役も担っている。

２．２．２．学生が受入団体のスタッフとして中核を担う

「茨城県ドッジボール協会」で実践科目Ｂとして Ｃ級公式審判員の資格を取り、全国の大会を同協会の主要スタッフとして飛び回って活躍してきた学生がいる。学生は個人的に協会と知り合ったことがきっかけとなり、大学とは全く関係を持っていなかった同協会での活動を自ら選択した。３年生になってからは、実践科目Ｃの自主企画として子供向けのドッジボール大会を開催するに留まらず、協会スタッフとして、２年生向けの受入協力団体による合同説明会に参加し、現在２名の２年生が活動の受入先としてお世話になっている。

２．２．３．同じ活動を通して縦の繋がりが生まれる

「大竹サーフライフセービングクラブ」で今年度実践科目Ｂとして活動を行ってきた学生は、昨年度同クラブで活動してきた３年生の先輩の励ましなしでは活動を終了できなかっただろう、とふりかえっている。この学生は、２年生に対する３年生の活動発表会で先輩の報告を聞いて興味を抱き、同クラブでの活動を希望した。ただ、そのクラブで活動を行うには400m を９分以内で泳ぎきれる実力がなければならない。泳ぎにあまり自信がなかった学生は、先輩の励ましを受けながら、ひた向きに練習し、トライアルでそのハードルをぎりぎりでクリアすることができた。このように、OCP を通して、先輩と後輩の強い絆が生まれた。

２．２．４．複数の団体で活動

「NPO 法人小貝川プロジェクト21」で昨年度リバーキャンプに参加した学生は、大学が多くの団体に協力していただいていることをプラスに捉えている。授業としての活動終了後も、１つの団体での活動だけでは物足りず、大学の強みを活かし、自発的に「NPO 法人アクティブつくば」のスポーツプログラムや「日本国際観光学会」の運営補助をはじめ、国際交流イベントや自分たちで企画している環境美化活動など、複数の団体で積極的に活動を行っている。

２．２．５．OCP をきっかけに自発的な活動に

フリースクールである「NPO 法人子どもの研究所」で実践科目Ｂの活動を行った学生は、30時間の活動終了後も自発的に活動を継続している。学生は、１年を経った今でも、毎週１回、寮生活を送っている子どもたちのために晩ご飯作りを手伝いに行っており、お姉さん的な立場として団体に関わっている。また、OCP の活動を通して子どもの心理に興味を持ち始め、現在は、知的障害を持った子供たちとの放課後の遊びにもボランティアとして関わっており、OCP をきっかけに幅広い視野を持ち始め、活動の幅が広がっている。

２．２．６．規定の時間にこだわらず活動

「NPO 法人アクティブつくば」で実践科目Ｂの活動を行った学生は、実践科目Ｃでも同団体での活動を選択した。この学生は、夏休みのキャンプ運営のためのスタッフとして、活動に最初から最後まで携わり、自分の役割を成し遂げた。実践科目Ｃでは60時間の活動が最低限必須となっているが、自分の役割を果たすために、結果としてその２倍以上の125時間もの時間を費やし、さらに現在も、自発的な活動として団体の運営に関わっている。

まだまだ紹介したい様々な実践事例があるが、スペースの問題上、割愛させていただく。

このように、OCP の活動を通して、学生

表１　実践科目受入協力団体リスト（平成18年度、平成19年度）

＊平成19年度は平成20年１月末日現在

	No.	団体名	活動地域	平成18年度受入実績		平成19年度受入実績			活動内容
				１年生	２年生	１年生	２年生	３年生	
医療・福祉	1	NPO 法人エイエスピー	古河		2				デイサービスセンターでの障害者サポート
	2	NPO 法人エンゼルハート	かすみがうら・土浦・石岡						訪問介護サービスによる高齢者の生活確保
	3	NPO 法人市民のための健康医療ネットワーク	つくば				1		市民に健康・医療に関わる情報提供
	4	NPO 法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ茨城	つくば	1					お年寄りに対するイベント活動
	5	つくば自立生活センターほにゃら（ほにゃらキッズ）	つくば		1		1	2	障害児との遊び
	6	教材作成ボランティア	つくば						障害児のための教材作成
	7	NPO 法人ボランのひろば	つくば		3	3	1		障害児との遊び
	8	NPO 法人来夢ハウス	つくば		1				自閉症を持つ青年との交流
	9	ライフパートナーつくば	つくば						様々な相談活動サポート
	10	つくばバリアフリー学習会	つくば	4	1	5	1		障害者（児）との様々なイベント活動をサポート
	11	NPO 法人茨城介助犬協会	行方市						介助犬育成・啓蒙活動サポート
	12	NPO 法人ケアサービスさざんか	土浦		1		4		お年寄りとの交流
	13	NPO 法人ウィラブ北茨城	北茨城						デイサービスセンターでの障害者サポート
	14	NPO 法人生活支援ネットワークこもれび	ひたちなか		1				デイサービスセンターでの障害児（者）サポート
	15	NPO 法人たんぽぽ	取手						デイサービスセンターでの障害者サポート
	16	NPO 法人アニマルセラピー協会	阿見						犬を利用したアニマルセラピー活動サポート
	17	つくば市社会福祉協議会	つくば						社会福祉活動全般
	18	スイミーかるがも	茎崎、下妻						障害児への水泳教室サポート
	19	NPO 法人自然生クラブ	つくば		3		1		障害児との遊びや芸術活動、農作業
	20	栃木つぼみの会	大洗		1				糖尿病を持つ若者のキャンプサポート
	21	つくば肢体不自由児者父母の会	つくば						肢体不自由児者の介護
	22	県南地域高齢者はつらつ百人委員会	茨城県南地域						高齢者へのパソコン指導、福祉施設訪問等
	23	みもり園	つくば	3					乗馬セラピー活動サポート
	24	筑波技術大学	つくば	3					第８回 WBUAP 盲人マッサージセミナー運営のサポート
	25	盲導犬ユーザーをサポートする会	水戸、他	2					盲導犬ユーザーや盲導犬との交流
環境	26	NPO 法人つくば環境フォーラム	つくば		1			2	森づくりボランティア
	27	NPO 法人宍塚の自然と歴史の会	土浦	11	5	1	9	1	里山保全、農作業、外来魚を駆除し生態系を取り戻すための調査活動
	28	NPO 法人霞ヶ浦浄化連	つくば・土浦						霞ヶ浦の環境保全活動
	29	NPO 法人アサザ基金	霞ヶ浦・北浦						霞ヶ浦の環境保全活動
	30	つくばクリエイティブリサイクル	つくば				5		沼崎工房でのリサイクル活動サポート
	31	つくばリサイクルを推進する会	つくば	7	3		4	6	リサイクルマーケットの運営サポート
	32	筑波山クリーンアップ大作戦実行委員会	つくば	13		12			ハートフルウォーク筑波山クリーンアップ大作戦
	33	つくば市環境保全部	つくば	5					ボランティア美化活動
	34	境町営・兎谷津へら鮒センター管理事務所	境町	1					ボランティア美化活動
まちづくり	35	わかものNPO-Voice Of Tsukuba	つくば		2			1	社会活動に関わるイベント企画・実施
	36	NPO 法人つくばアーバンガーデニング	つくば	65	5	8	11		100本のクリスマスツリーの運営サポート
	37	NPO 法人茨城の暮しと景観を考える会	水戸						景観を中心としたまちづくり活動
	38	NPO 法人GIS 総合研究所いばらき	水戸						GIS に関する調査研究活動
	39	NPO 法人グリーンピュア	茨城県北						蕎麦作りを通した過疎地活性化活動
	40	日本赤十字社茨城県支部	水戸						防災ボランティアの訓練・イベントサポート
	41	（株）カスミ	つくば						カスミの行う社会貢献活動のサポート
	42	NPO 法人つくば市民活動推進機構（つくばEPO）	つくば						市民活動に関するイベントのサポート
	43	シャッターアート（潤徳女子高校）	北千住				1		商店街のシャッターに絵を描き、地域活性を図るプロジェクト
社会教育・子供	44	つくばこどもクラブ	つくば			5	2		親子で楽しむイベントの運営サポート
	45	NPO 法人世界のこどもネット　子育てサークル「グローバルキッズ」	つくば	3					子ども・障害児との様々なイベント活動をサポート
	46	（財）ハーモニィセンター　小貝川ポニー牧場	取手		16		7	2	子供や障害児とのリバーキャンプ、乗馬セラピーサポート
	47	NPO 法人知の市庭	つくば						市民活動の企画運営に係わるアドバイス
	48	NPO 法人子どもの研究所	阿見	5	1				フリースクールで子供との遊び、スポーツ、農作業
	49	つくほクラブ	つくば		2				子供との遊び
	50	NPO 法人すだち	赤塚						子供との遊び
	51	NPO 法人茨城 YMCA	つくば				1		子供や障害児との遊び
	52	吾妻乳幼児学級	つくば						子供との遊び
	53	手代木乳幼児学級	つくば						子供との遊び
	54	つくば遊ぼう広場の会	つくば		6	1	12		子供との遊び
	55	NPO 法人ひたち親子劇場	日立						子供との遊び
	56	おもちゃライブラリーさくらんぼ	つくば	2	1		1		子供とのおもちゃ遊び
	57	こども工房バオバブ	つくば	11	2	4	5		子供との遊び
	58	つくば市教育委員会（学校図書館ボランティア）	つくば				2		つくば市内小中学校の図書室での生徒への本の貸し出し等

社会教育・子供	59	つくば市生涯学習課	つくば	1	4				子供との遊び
	60	かすみがうら市生涯学習課	かすみがうら						国民文化祭（平成20年度）運営サポート
	61	取手市立ふじしろ図書館	取手				1		本の貸し出しや返却のサポート
	62	茗渓学園高等学校	つくば					1	レゴロボット製作授業のサポート
	63	桜中学校創立50周年記念式典運営委員会	つくば	6					桜中学校創立50周年記念式典の運営サポート
	64	一中地区地域のふれあいを広める会青少年部会	ひたちなか	1					子供との遊び
	65	あしなが学生募金事務局	つくば			2			遺児学生らが企画したコースでのウォーキング活動
スポーツ	66	NPO法人つくばフットボールクラブ	つくば		2		2		サッカーの指導、サッカーイベントの運営補助
	67	NPO法人Dance Association Seeds	つくば	1	1		9		ダンスイベントの運営サポート
	68	筑波大学ライフセービング部（大竹サーフライフセービングクラブ）	つくば（大竹海岸）		1		1		ライフセービング活動
	69	NPO法人アクティブつくば	つくば		9		9	1	様々なスポーツを楽しむ子供たちのサポート
	70	つくばオールスターチア	つくば						チアリーディングイベントの運営サポート
	71	セイラビリティ土浦	土浦	6	3		10		障害者（児）のヨットクルーズサポート
	72	茨城ゴールデンゴールズ	つくば	1	13		2		茨城ゴールデンゴールズの運営サポート
	73	茨城県ドッジボール協会	茨城県内	1	1	2	2	1	ドッジボール大会の運営サポート
	74	NPO法人霞ヶ浦クラブ	かすみがうら		7				フットサルの運営サポート
	75	NPO法人ミラクルスポーツキングダム	つくば、牛久		1	6	4		子供へのスポーツ指導
	76	ねんりんピック茨城2007つくば市実行委員会	つくば	3			20		ねんりんピック茨城2007の運営サポート
	77	つくば市スポーツ振興課	つくば	20		6			つくばマラソン運営サポート
	78	茨城県サッカー協会女子委員会	ひたちなか				1		全日本女子サッカー選手権大会の運営サポート
	79	守谷バスケットボールクラブ	守谷	1					バスケットボール大会の運営サポート
国際	80	NPO法人N＆Nコーポレーション	神栖・水戸						様々な語学の教授サポート
	81	（独）国際協力機構（JICA）筑波国際センター	つくば		7				国際協力・国際交流イベントのサポート
	82	アジア友情の会	つくば	13		11	1		東南アジアの子供に送る絵本作成、リサイクルショップの運営
	83	希望の学校	つくば	3					アフガニスタン女性のための学校支援活動
	84	タイ語勉強会	つくば		1				タイ語勉強会でのタイ語での話し相手
	85	日本語教授（つくば都市振興財団）	つくば		2				外国人への日本語教授サポートなど
	86	日本語クラブ	つくば	2		1			外国人への日本語教授サポート
	87	つくば市国際交流協会	つくば			1			日本語スピーチコンテストの運営サポート
	88	（財）茨城県国際交流協会	水戸						国際協力・国際交流イベントのサポート
	89	会津若松市国際交流協会	会津若松	2					会津若松市国際交流協会版チョボラ運営サポート
	90	リバティーインターナショナルスクール	つくば	1			8		インターナショナルスクール運営サポート
女性	91	NPO法人ままとーん	つくば	2		8			育児サポート
	92	モネット（有）	つくば茨城県全域				2		授乳服イベントサポート
	93	NPO法人つくばピンクリボンの会	つくば						乳がん予防と治療の啓発イベントサポート
文化	94	水戸オセロプロジェクトいばらき推進委員会	水戸	2	2				世界オセロ大会の運営サポート
	95	つくば・まちかど音楽市場ネットワーク	つくば	2	4		7	7	つくばの街角で行う音楽イベントサポート
	96	吾妻まつり	つくば		1		6	8	筑波学院大学のある、つくば市吾妻地区のお祭り運営サポート
	97	広浦にっぱち会（あんばまつり）	茨城町		1		1	1	学生の住む地域の伝統的なお祭り運営サポート
	98	（社）つくば市観光協会	つくば						つくば市の観光イベントサポート
	99	まつりつくば（つくば市観光物産課）	つくば		1		1	7	まつりつくばの運営サポート
情報・科学・学術	100	NPO法人茨城県南生活者ネット	龍ヶ崎	1	3	2	1		インターネットTV番組の製作サポート
	101	つくばパソコンボランティアサークル	つくば				1		高齢者へのパソコン指導サポート
	102	つくばサイエンスツアーオフィス	つくば				2		サイエンスツアーバスの運営サポート
	103	つくば市産業振興課	つくば			11	1		ロボット自立走行競技大会運営サポート
	104	（有）ウェルシステム	つくば		3				東京国際大野球部のホームページ作成サポート
	105	NPO法人コミュニティ龍ヶ崎	龍ヶ崎						ラジオ番組作成
	106	ラジオフリークス（19年度より『roots』に改称）	つくば		1		1		ラジオ番組作成
学内	107	テニス大会企画運営（テニス部有志）	つくば		8		5		テニス大会の企画・運営
	108	オープンキャンパス（学内）	つくば			6	9		筑波学院大学のオープンキャンパス運営サポート
	109	日本国際観光学会（学内）	つくば		8				学会の運営サポート
	110	ヴァーチャル・スタディ・マップ（VSM）プロジェクト（学内）	つくば	1	6		13		つくば市と提携し、パソコン検索できる観光マップ作成
	111	パソコンボランティア（学内）	つくば		9				お年寄りへのパソコン教室
	112	日本科学教育学会（学内）	つくば	10	18				学会の運営サポート
	113	ロボカップ（学内）	つくば		11	2			子供にレゴロボット作りを教える活動
	114	つくば科学フェスティバル（学内）	つくば	13		1	1		つくば科学フェスティバル2006の運営サポート
	115	ものづくりフェア（学内）	つくば		1	7			ものづくり教育フェアのサポート
	116	高齢者施設のホームページ運営（学内）	土浦				3		高齢者施設のホームページ運営サポート
	117	計測自動制御学会SI部門ロボット・セラピー部会（学内）	東京	1	1		2		学会の運営サポート
			合　計	230	188	105	195	40	
			対象学生数	215	202	118	215	202	

＊平成18年度の１年生は23名が複数団体で活動を行ったため、230名は述人数となる
＊平成19年度の３年生は８名が複数団体で活動を行ったため、40名は述人数となる

が学外で社会参加活動を行う意義を見出し、OCPの活動を行ったからこそ得られた社会力、特にそこで築き上げた人間関係、視点、自信は、これから社会に出る学生にとっては、非常に貴重な資質や財産となるであろう。OCPをきっかけとして、個々の学生自身の思いもよらなかった出会いや、発見、自己内省に繋がっていることは、OCPの意義の大きさを示すものであろう。

３．OCPの成果

OCPは文部科学省の現代GPに採択され、社会力を育てる本学の教育そのものの意義を高く評価されたが、実際に活動を行った学生やその受入団体、「社会人基礎力」の育成に力を入れている経済産業省はどのように評価しているのだろうか。また、OCPの運営に学生の視点から関っている「OCP学生スタッフ」、OCPに市民活動の外部アドバイザーの立場で関っている「NPO法人つくば市民活動推進機構（つくばEPO）」には、このプログラムを通してどのような成果が出ているのか、さらに、これまでの広報・宣伝活動についてもまとめることとする。

３．１．学生からの評価[1)]

OCP学生スタッフが、平成18年度末に１・２年生に行った実践科目に対するアンケートによると、実践科目を通して「楽しかったし何か得られた」48%、「楽しくなかったが何か得られた」21%、と「何か得られた」と回答した学生が69%を占め、「楽しくなかったし何も得られなかった」15%、「楽しかったが何も得られなかった」12%、と「何も得られなかった」と回答した学生27%を大きく上回った。

また、活動を選んだ理由は、①興味があって29%、②楽しそう27%、③友達に誘われて20%、実践科目を通して得たものについては、①人との繋がり（コミュニケーション）50%、②実績・経験23%、③知識・技術13%、が多かった。

これらのことから、約７割の学生がOCPを通して何か得られたと回答しており、全体的に楽しく、一定の達成感を得ているとプラスの評価が、特に中長期的な活動を行う２年生ほど高かったことが伺えた。一方で、「友達に誘われて」といった消極的な態度で、自分の意思で参加しなかった場合は得るものも少ないという結果も得られた。

３．２．受入団体からの評価

平成18年度に、実践科目Bの学生を受入れた全49団体（２団体が２枚提出）に対する５段階評価（表２参照）では、「学生の参加は団体に役立ったか」の問いに、平均で4.1と高い評価が得られた。「学生の参加により刺激を受け、人材不足を補うマンパワーとして役立った」との評価を得た一方で、一部主体性に欠ける学生への対応が課題に挙がった。「社会活動参加が学生の社会力向上に役立っ

表２　OCP学生受入団体からの評価

	1	2	3	3.5	4	4.5	5	無回答	合計	平均
Ⅰ．今回の筑波学院大学生の社会活動参加は貴団体に役立ったと思いますか？		2	8		18	1	21	1	51	4.1
Ⅱ．今回の筑波学院大学生の社会活動参加は学生の社会力（様々な人たちといい関係をつくり、社会の運営に参画し、社会に貢献することができる力）向上に役立ったと思いますか？			13	1	16		21		51	4.1
Ⅲ．今回受け入れた学生の活動状況はどうでしたか？		2	10		23		15	1	51	3.9

1…役立ったと思わない（良くなかった）　3…普通　5…役立ったと思う（良かった）

たと思うか」の問いに対しては、平均で4.1と評価は高く、「社会と関わり、人とコミュニケーションを図る体験自体の大切さ」を回答した団体が多かった。「学生の活動状況」についても、平均で3.9と評価は高く、「ほとんどの学生が積極的に活動に参加した」というコメントであった。

また、２年生を対象に行う、受入協力団体による合同説明会は、滅多に集まることのない市民活動団体同士が、OCPというプログラムを通して横の繋がりを作る良い機会であるとの評価をいただいており、受入団体にとって副次的な効果も出ている。

３．３．経済産業省「社会人基礎力」担当官からの評価

平成19年８月、経済産業省「社会人基礎力」政策担当者３名が、本学の社会力育成教育に注目し、視察に訪れた。担当官は、学生の活動を視察すると同時に、学長や教職員・社会力コーディネーターと意見交換し、つくばEPOの視察も行った。視察後、担当官からは、「貴学の教育には『地域に貢献する』だけでなく、『地域と共に成長する』という新しい大学の存在意義を見せていただいた。この取り組みが、学生の成長と地域のNPOやボランティアの活性化を促進し、それが地域の人々の繋がりの強化、幸福の増進に繋がっていく起爆剤になり得る。また、社会力コーディネーターの存在は、日本社会が、人間同士を繋ぐ役割をどこまで重視するのか、という重要な試金石になるだろう」との高い評価をいただいた。

３．４．OCP学生スタッフ[2)]

OCPに対して、学生の視点からプログラム運営に意見を反映させるために、平成18年10月からOCP学生スタッフを編成し、現在25名の学生スタッフが活動に取り組んでいる。OCP学生スタッフは、OCPのより良い推進のために欠かせない存在となっており、「企画・運営チーム」、「コーディネートチーム」、「広報チーム」の３つのチームで構成されている。

各学生スタッフは、いずれかのチームに属しながらも、必要に応じてチームを横断しながら活動を行っている。

まだ発足して１年しか経っていないため、試行錯誤を繰り返しているが、これまで、主に表３に示すような活動に取り組んできた。

今後は、OCPの意義を理解し、当事者として社会参加活動の楽しさを実体験してきたOCP学生スタッフが、大学と学生の間を上手く橋渡しし、学生の立場からより良い方向にOCPを運営していけるよう、より自発的な活動が求められる。

３．５．NPO法人つくば市民活動推進機構（つくばEPO）

学生の受入に関する協力団体探しや、市民

表３　OCP学生スタッフの成果

OCP学生スタッフ全体		
・３回の研修会（筑波大学の野外施設を利用してのチームビルディング研修、つくばEPOの協力の下、平成19年度の目標設定のためのワークショップ２回） ・平成19年７月に行った現代GP・公開フォーラムでの交流会の主催		
企画・運営チーム	コーディネートチーム	広報チーム
・平成18年度の実践科目A・実践科目Bに対する学生アンケートの実施（作成・実施、データ分析、学生への公表） ・現代GP・公開フォーラムの交流会の企画立案・実施	・約15団体・イベントでの活動を通した研修 ・つくばEPOに同行し、約20団体に対してマッチングシステム作成のためのヒアリング実施	・地元新聞紙への活動記事連載（平成19年12月末現在、30回） ・OCPプロモーションビデオの作成 ・現代GP・公開フォーラムのためのOCPロゴ、及びポスターの作成

活動団体で学生が社会参加活動を行うに当って、大学の持つ繋がりや、ノウハウだけでは、学生のニーズに十分に応えきれない。そのため、市民活動に関する外部アドバイザーとして、本学は、つくば市を中心とした市民活動団体を中間支援する目的で設立された「NPO 法人つくば市民活動推進機構（つくばEPO）」と連携協定を締結している。

これまで、つくばEPO には、受入団体の開拓や調整、オリエンテーション時の出前講座、マッチング時のデータベース作成のための団体ヒアリング、また、OCP 学生スタッフに対するアドバイス等の面で協力をいただいている。

つくばEPO は、本学に対するこのような協力も一因となって、議会での承認を受け、平成19年４月から、つくば市の指定管理者として「つくば市市民活動センター」の運営を行っており、本格的に市民・大学・行政が一体となった取り組みが実現し始めた。

つくばEPO は、定期的に市民向けの様々な講座やアドバイスを行い、つくば市から「市民協働のためのガイドライン」作りを受託・作成し、また、「TX（つくばエクスプレス）沿線 NPO 祭り in つくば」を企画したりと、より市民の視点に立った市民活動センターの運営に向けて、活発に活動を行っている。

その中で、本学の学生２名も、市民活動の勉強を兼ねた非常勤スタッフとして運営に関わっており、様々な経験を積み、また、つくば市内外に幅広い人脈を構築している。

今後、大学とつくばEPO や市民活動センターとの更なる連携を築き上げることで、OCP の可能性を広げていきたい。

３．６．広報・宣伝活動

３．６．１．地元新聞社との連携

OCP の活動を学内外に発信することを目的として、平成18年10月より、地元新聞社である常陽新聞新社と連携し、毎月２回隔週で、学生の活動レポートを中心に連載を行っており、平成19年12月末現在で30回の連載となった。これまでに、多数の学生の活動レポートが新聞に掲載されたのみならず、OCP 学生スタッフの活動報告、OCP 学生スタッフと受入団体との座談会、また、OCP に関する様々な情報など、学生の視点から OCP についての報告や情報発信を行うことができた。学生の活動が学内外に広く報道されることで、学生のモチベーションアップに大きな効果を挙げていることは言うまでもない。

３．６．２．他の新聞社等による報道

OCP が多様な仕組みの中で、全学生が社会参加活動を必修とする試みは、一教育機関が行う教育プログラムとしては非常に先駆的なこともあり、様々なメディアから注目を浴びている。これまでに、読売新聞（「教育ルネサンス No.665」、2007年９月13日朝刊）、茨城新聞、常陽新聞、地元フリーペーパーの常陽リビングにも度々採り上げられた。これらに加え、筆者も、OCP が地域での体験学習の先駆的試みとして、私立大学協会の発行する教育学術新聞に３回の寄稿連載（2007年９月19日、26日、10月３日号）を行った。

また、平成19年度初めに茨城県が、県内の公立高校２年生向けに、高校生が社会に繋がるきっかけづくりとして配布した冊子「ENTRY ～『未だ見ぬ自分』に出会う旅～」にも、本学の学生１人が取り上げられた。

３．６．３．現代 GP・公開フォーラムの開催

平成19年７月28日、本学の教育の特徴と意義を学外の様々な方に理解していただくために、「現代 GP・公開フォーラム」を開催した。フォーラムのプログラムは表４の内容で構成し、多角的な視点から OCP のユニークさ、その意義ないし価値を再認識していただくことを趣旨とした。

表４　「現代 GP・公開フォーラム」プログラム

13：00	開会の辞	吉田　眞澄　　筑波学院大学教授・学部長（OCP 推進室長）
13：10	基調講演	佐々木　毅　　学習院大学 法学部教授（前東京大学総長） 演題「日本の若者と市民意識」
14：10	OCP 説明	金久保紀子　　筑波学院大学准教授（OCP 推進室員・教務委員長）
14：20	学生発表	OCP 学生スタッフ活動報告・OCP 活動報告
14：40	休憩	（学生によるポスター発表）
15：00	報告	和栗　百恵　　早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター客員講師 演題「海外における社会参加型学習の動向と意義」 興梠　　寛　　日本ボランティア学習協会 会長 演題「日本におけるボランティア学習の動向と意義」 関　　正樹　関彰商事（株）代表取締役社長 演題「企業が求める人材の資質能力と社員の社会貢献活動」
16：10	NPO 法人発表	松浦　幹司　　NPO 法人つくば市民活動推進機構 副代表理事・事務局長 及川ひろみ　　NPO 法人宍塚の自然と歴史の会 理事長 松原　卓朗　　NPO 法人茨城県南生活者ネット 代表理事
16：40	謝辞	門脇　厚司　　筑波学院大学 学長
16：50	閉会の辞	吉田　眞澄　　筑波学院大学教授・学部長（OCP 推進室長）
17：00	交流会	学生主催

フォーラムには、本学の学生や教職員も入れて、約200名の参加があった。これにより、様々な方に、OCP の特徴や意義について理解していただく場を持つことができた。

また、学生にとっては、学生による OCP 学生スタッフ、実践科目に関する活動報告やポスター発表のみならず、学生主催で交流会を開催し、成功に至ったことは、一つのことを最後まで成し遂げ、達成感を味わうことができた点で大きな自信となった。

４．他大学の実践事例

本学の OCP の更なる発展のために、参考として、学外での体験学習を積極的に推進している他大学の取り組み事例を表５に記述しておく。ヒアリング先は３大学。ヒアリングは電話にて行った。

５．今後の課題

これまで述べてきたように、本学が実践している社会力育成教育は、文部科学省や経済産業省など国の政策推進レベルでも、学生の社会参加活動の実践レベルでも高い評価を受けているが、より良い教育プログラムとするには、まだまだ課題が多い。主な課題を挙げれば次のようになる。

５．１．教育プログラムとしての更なる確立

教育プログラムである OCP は、事前学習、目標設定、社会活動参加、活動時のふりかえり、まとめ、事後学習という、教育プログラムとしての一連のプロセスが重要である。他大学のカリキュラム構成から見受けられるように、事前学習やまとめ・事後学習は、単位としては学外での実習と切り離し、それぞれをほぼ必修又は必修に近い形で履修すべき科目としてまで徹底して行っているケースが見られる。これほど、事前学習やまとめ・事後学習は重要視されている教育プロセスであるといえよう。

例えば、OCP では、事前学習として教育・教養科目などの社会参加に近い科目との連動を行ったりするなど、関係性の強い他の科目との繋がりを持つことが考えられる。また、中間ふりかえりやまとめについては、より十分にクラス内でのふりかえりや発表の場を設け、各学生の学びを更に深め、共有するなど、社会力向上のために学生の可能性を引き

表５　他大学における体験学習の実践事例

	大学Ａ	大学Ｂ	大学Ｃ
１．実施体制	大学にある２学部５学科の中の１学部２学科でコミュニティサービスラーニング（CSL）と海外フィールドスタディ（FS）を選択科目として実施している（2006年度特色GPに採択）。そのために、教務委員会の下にCSLとFSの決定機関である「体験学習CSL･FS委員会」を設け、実施組織として「体験学習CSL･FS室」を設置することで、教職員と学生を結んでいる。さらに、CSLでは「CSL小委員会」（教員６名で構成）を置き、ほぼ毎月の会合で具体的な進め方を検討している。	学内に「サービス･ラーニング･センター」を設置（４名で構成）し、大学にある１学部６学科の全学生を対象に、選択科目として国内外でのサービスラーニングを推進している。	大学にある１学部５学科の中の１学科の取り組みとして、「フィールドワーク」を必修科目として実施しており、学科会議（教員８名で構成）が、決定･実施組織となっている。
２．カリキュラム構成	事前学習として、必修として「サービスラーニング方法論」（２単位、CSLの理論学習と活動先の決定（活動先でのオリエンテーション、手続き等））を履修する。その後、活動時間50時間の「CSL Ⅰ」（１単位）を行う。CSL Ⅰでは、活動記録提出、教員とのふりかえり、レポート提出が義務付けられている。また、さらに発展・継続してCSLに取り組みたい学生のために、「CSL Ⅱ」、「CSL Ⅲ」（各１単位）をプログラム化している。	事前学習として、必修ではないものの、前期に「サービスラーニング入門」（２単位、概念、受入団体からの話、ワークショップ等）、「サービスラーニングの実習準備」（１単位、ガイダンス、個別面談、ジャーナルの付け方、学生からの体験談、ワークショップ等）を履修することを強く勧めている。また、単位にはならないが、同じ活動を行うグループ毎に事前勉強会を行うことが慣習となっている。その後、実習として30日以上のサービス活動を実施する「国際サービスラーニング」か「コミュニティサービスラーニング」（各３単位）を行う。終了後、「サービス経験の共有と評価」（１単位）として、サービスラーニングアドバイザー（指導教官）に対するプレゼンテーション、10枚以上のレポートを提出する。	国内外で取り組む、学科内全学生対象の「フィールドワーク」という科目がⅠ～Ⅹ（各４単位か６単位）まであり、学生はそのうち最低１科目を選択履修する。各フィールドワーク担当教官によって進め方は違うが、国内２ヶ所、海外２ヶ所で行う長期のフィールドワーク（６単位）では、前期に事前学習として学生たちで計画作り（テーマ設定、スケジューリング）、現地コーディネーターとの調整、チケット手配、予防接種、現地語学習、等を行い、夏休みに約２週間のフィールドワーク、後期に報告書（個人及び全体）を作成する。
３．学生の意識向上	実際に体験してきた先輩の報告会や学園祭での展示を通した呼びかけを行っている。まだ実現していないが、履修相談も行いたいという学生も出てきている。	昨年度で39名の履修者と、少数を鍛えぬく形式を取っているため、徹底した個別指導を行うことで、学生の意識向上に努めている。また、これまでにプログラムに参加した学生有志がサービスラーニング・スチューデント・ネットワークを作り、サービスラーニングの広報活動等を行っている。	各フィールドワーク担当教官が徹底した指導に当ることで、学生の意識向上に努めている。
４．教員の専門領域との融合	現時点ではCSLを担当できる教員の専門分野である「福祉」、「環境」、「国際交流」の３分野から学生が選択する。現在、学生の幅広いニーズに対応するために他分野でのCSLも増やしていく方向で調整を行っている最中である。	学生は、全ての教員又はサービスラーニングセンタースタッフの中から１人、指導教官としてサービスラーニングアドバイザーを選ぶ仕組みを取っている。そのため、必然的に、サービス活動を行う分野や団体に関連した教員が担当となる。	担当教官の専門とする地域や分野のフィールドワークを行うので、専門領域の面では融合している。但し、事前学習・事後学習を含めた教育プログラムとしてのフィールドワークを通して、どれだけ人間的成長にも関与できるかは担当次第となる。
５．コーディネーターの役割	受入団体と学生との調整、学内調整、オリエンテーション、パンフレットや報告書の作成、学園祭での展示等。（学生の活動モニタリングは大学院生にアルバイトで行わせる場合もある。）	サービスラーニングに関する授業やプログラム全体を計画・実施・調整する。また、受入団体の確保と調整、パンフレットや報告書の作成、海外の提携大学から１ヶ月サービス活動に来た交換学生に対するプログラム作成やケア。	担当教官が行う。但し、海外フィールドワークの場合、現地での病気・怪我等のトラブル対応のために、アルバイトとして、ティーチング・アシスタントを雇い、２名体制としている。

出すことは、さらにレベルの高い次の実践活動に繋げるためには不可欠である。

5．2．学生の動機付け・意識強化

他大学においても、体験学習が必修でないにしても、科目を選択した学生をどのようにエンパワーメントしていくのかは大きな課題であった。このために共通して言えることは、既に履修した学生自身による働きかけと、担当教官を中心とした教職員による働きかけとを同時に行っていくことが非常に重要であるということである。

OCPでは、全学生が必修科目であるため、学生が学外に出る前に、社会参加活動を行う意義やその楽しさを伝え、感じ取ってもらうことがより一層重要となる。その１つとして、オリエンテーションの充実が挙げられる。特に、実際に活動を体験し、その意義や楽しさを感じた学生自身が、後輩である学生に直接語りかけることは、我々学校側がそれを行うよりも、何倍もの説得力があることは言うまでもない。そのためにも、OCP学生スタッフを中心とした学生自身がアドバイスや広報活動をより強化できる工夫を一緒に考えていく必要がある。

また教職員も、学生の秘めた能力と失敗を恐れないチャレンジ精神など、学生の持つ可能性を最大限に引き出し、後押しをすることは、学外に飛び出し社会参加活動を行う学生に対しては不可欠なことであろう。

5．3．教員の専門領域との融合

OCPは社会力の育成という人間としての成長に重点を置いた教育プログラムであるため、学生の行う社会参加活動と教員の持つ専門領域や論理的な物事の考え方・進め方を如何に融合し、応用していけるか、このことが、OCPを真の意味での全学的な取り組みにできるかどうかの大きなポイントであると考える。学生の様々な分野での学外での学びや達成感を、学問への関心に向け、学術的・論理的に整理した上で、改めて学外で学び直す。この繰り返しこそが、学生の学びと活動をより意義深いものへと深化させるだろう。

このように、まだまだ解決すべき課題は多いものの、一方で、本稿で述べてきた多くの成果を出してきているOCPの意義も学内外に徐々に浸透しつつある。これらの課題を１つ１つ解決しながらも、地道ではあるが、この取り組みを長期的に継続し、卒業生をも巻き込んだプログラムとして発展していけば、個々の学生のみならず、つくば市全体が社会力豊かな街になることは、決して、夢物語ではないであろう。

注

１、２に関する詳細は、金久保紀子・馬場　裕、「OCP学生スタッフの取り組み～立ち上げから現在まで～」、筑波学院大学紀要第３集　2008年、参照のこと

参考文献

１）西機　真・武田直樹、「筑波学院大学オフ・キャンパス・プログラムにおける社会力コーディネーターの試み」、筑波学院大学紀要第２集　2007年、p.195–p.204.

２）筑波学院大学OCP推進室、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム『つくば市をキャンパスにした社会力育成教育』平成18年度報告書」